

The Demand for Biosimilars: A Case Study of Filgrastims in Japan

Kyogo Kanazawa

Graduate School of Economics, The University of Tokyo

April 16, 2018

Abstract

バイオ医薬品とは生物を用いて製造される医薬品のことを指し、その後発医薬品はバイオシミラーと呼ばれる。その生産、品質維持には従来の単分子医薬品と比較してより高度かつ高コストな技術が必要とされるが、その世界の医薬品市場に占める売上シェアは2016年には25%に達しており今後も増加すると見込まれている。そのためバイオ医薬品およびバイオシミラーについて、先発品利益保護による研究開発の促進と後発品の普及による患者利益や医療費減少の最適なバランスを特許制度によって探っていくことは今後政策的に非常に重要な課題である。当論文ではバイオ医薬品の一つであり主に好中球減少症に対して用いられる医薬品フィルグラスチムとそのバイオシミラーおよびその競合品を対象として、日本の2010年度から2014年度までの入院患者10万人以上の大規模なデータを用いて患者の医薬品選択モデルの推定を行った。その結果フィルグラスチムにおいても価格が医薬品選択に負の影響を与えている一方で病院の差益は正の影響を与えていることが示された。これによって従来の単分子医薬品同様に、バイオ医薬品においても薬価の低下だけでなく病院側の差益の増加もそのシェア拡大に効果的であることが推察される。

Keywords: ジェネリック、バイオ医薬品、バイオシミラー、フィルグラスチム、医薬品、特許、薬価

JEL Codes: I18; K23; L65; O34.